

## 2 かがわの目指す食育

- (1) 現状と課題
- (2) 基本目標
- (3) 基本方針

## (1) 現状と課題

### ① 現状

#### 食品・栄養素の摂取状況

#### 野菜の摂取不足

- 平成16年県民健康・栄養調査によると前回調査（平成11年）と比較して、特に、野菜の摂取量はすべての年齢層で減少し、1日350g必要なところが218gでした。

#### 食習慣

#### 朝食の欠食、孤食の増加

- 県民全体では、約8割の人が朝食を毎日食べていますが、20歳代の男女で、朝食を欠食する割合が高くなっています。
- ほとんど朝食を食べない小・中学生が増加しています。
- 幼児期から、朝食の欠食、栄養バランスの偏り、孤食などが見られます。

#### 健康

#### 子ども、成人とも肥満が増加

- 男性では、約3割が肥満（BMI 25以上）でその割合は増加傾向となっています。
- 肥満傾向の小・中学生が増加しています。
- メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者と予備群と考えられる者を併せた割合は、男女とも40歳以上で高く、40-74歳でみると、男性の10人に6人、女性の5人に1人が該当します。

#### さぬきの食文化の特徴等

#### 郷土色豊かな食文化の希薄化

- 温暖な気候と讃岐平野・瀬戸内海などの豊かな自然環境・資源に恵まれ、ばら寿司、うどんなど特色ある郷土料理が数多く生み出され、祭りや年中行事などとともに長い年月をかけて受け継がれ、さぬきの食文化を形成しています。  
しかし、社会情勢の変化や食生活の多様化、外部化により、季節感あふれる郷土色豊かな食文化は薄れつつあります。
- 「かがわ地産地消運動推進会議」を中心とした地産地消の取組みや関係団体等による農・漁業や調理など様々な体験活動が行われています。

#### 食育に関する意識

#### 半数近くが認識不足

- 内閣府の「食育に関する特別世論調査」（平成17年7月）によると、47.4%の人が「食育」の言葉も意味も知らなかった状況です。  
しかし、約70%の人が「食育」に関心があるとし、その理由としては、「食生活の乱れ」、「生活習慣病の増加」及び「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」の3つが多数回答されていました。

## ② 課題

### 県民自ら食を通じた健康づくり

- 年代別に応じた食事と心身の関係や食習慣、食文化、地域固有の食材等に配慮した食生活指針などを定め、県民自ら食を通じた健康づくりを実践できるよう、行政と関係団体等が連携・協働し、支援することが必要です。

### 家庭・地域・学校等の連携による食育の推進

- 朝食の欠食や野菜の摂取不足が子どもから全世代にわたってみられ、様々な機会を通して、望ましい食習慣を身に付ける取組みが必要です。
- 食べ物が食卓にのぼるまでの過程への理解や食に対する感謝の念、食品の賢い選択、調理体験等が子どもの頃から身に付けられるよう家庭、地域、学校等の連携を促進する仕組みづくりが必要です。

### さぬきの食文化を生かした食育の推進

- 代表的な郷土料理の食材や調理法などの地域の食文化と、香川県の豊かな農水産物の生産に根ざした食の知恵や技術を行政、地域、関係団体等が連携しながら次の世代につなぐことが必要です。

### 地産地消や体験活動等を通じた食の理解の促進

- 産直や農林漁業者、食品関連事業者等による様々な体験活動の機会の提供及び食に関する情報提供に努め、地産地消や体験活動、生産者と消費者との交流等を通じた食の理解の促進に取り組むことが必要です。
- 食品の安全性、食品の生産と流通、食文化、地域固有の食材の知識などについて的確な情報収集・提供を行い、食に対する理解を促進することが必要です。

### 食育の推進体制づくり

- 食育の普及啓発や地域における実践活動について、行政や食に関係する様々な団体が連携・協働し、県民運動として食育の推進に取り組んでいくことが必要です。

## (2) 基本目標

### 心身ともに健康で豊かな県民生活の実現

食育の推進に当たっては、さぬきの食文化が香川県の歴史、風土及び環境から育まれてきたことを踏まえ、食に対する親しみや感謝の念を持ち、様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育む食育を、県民運動として展開していくことが必要です。

また、地産地消の取組みや学校での食育、体験活動の充実、伝統的な食文化の継承、食の安全・安心に関する情報提供などを進め、県民一人ひとりが食に関する知識と理解を深め、自らの判断で食を正しく選択できるよう、支援することが必要です。

このため、「心身ともに健康で豊かな県民生活の実現」を基本目標として設定し、県を挙げて食育の推進に取り組みます。

## (3) 基本方針

この基本目標を実現するため、次の3つの基本方針を設定します。

### 心身ともに健康で豊かな人づくり

生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、健康に配慮した食生活が実践できるよう、家庭、地域、学校・保育所等と連携して食育を推進し、心身ともに健康で豊かな人づくりを目指します。

### さぬきの食文化の継承・発展と体験や交流の促進による地域づくり

ボランティアや生産者、学校、関係団体等と連携し、郷土料理の伝承や地産地消と体験活動を通じた食への理解を促進するなど、さぬきの食文化の継承・発展と体験や交流の促進による地域づくりを推進します。

### 行政と関係団体等との連携・協働による環境づくり

県民一人ひとりが自らの「食」について考え、判断できる習慣を身に付け、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな生活が実現できるよう、行政や関係団体等が連携・協働して、食に関する的確な情報の収集・提供や適切な食育の実践活動の推進など、環境づくりを推進します。